

# X-TEA Driver/Editor コンテンツファイル XML様式V1. 2 仕様書

XML属性: xml version="1.0" encoding="UTF-8"

要素	属性	説明 (文中の<...>はコンテンツファイル上のXML要素を表す)
System		すべての定義を包含するルート要素で、Xeafファイル1個につき1個だけ存在する
	Name	システムの名称
	Remarks	システムの詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	Version	システム定義の改版番号
	FormatVersion	X-TEA Driver/Editor コンテンツファイルXML様式のバージョン。本仕様書に従うものであれば"1.0"
	DatabaseName	メインDBのタイプと場所(*1)
	DatabaseUser	メインDBの接続ユーザID
	DatabasePassword	メインDBの接続パスワード
	DBCP	メインDBのDBCPオプション
	AppServerName	アプリケーションサーバのURL。ブランク可。
	VariantsTable	システム変数テーブルのID
	UserTable	ユーザテーブルのID
	NumberingTable	採番テーブルのID
	UserVariantsTable	ユーザ変数テーブルのID
	SessionTable	セッションテーブルのID
	SessionDetailTable	セッション明細テーブルのID
	TaxTable	消費税率テーブルのID
	CalendarTable	休日テーブルのID
	CurrencyTable	年次為替レートテーブルのID
	CurrencyDetailTable	月次為替レートテーブルのID
	AutoConnectToEdit	エディターを開いたときに自動的にDBと接続するかどうかの指定。自動接続したい場合は"Y"、そうでなければ"N"
	EditorUser	EditorからDriverを起動する際のユーザID
	EditorUserPassword	EditorからDriverを起動する際のパスワード
	DriverVMOptions	EditorからDriverを起動する際のVMオプション
	ProxyIP	プロキシサーバのIPアドレス
	ProxyPort	プロキシサーバ用ポート
	SkipModuleCheck	"Y"であれば、Editor起動時にモジュールチェックがスキップされる
	SkipPreload	"Y"であれば、EditorからDriverを起動する際に機能のプリロードがスキップされる
	Smtphost	メール送信用サーバ名
	Smtport	メール送信用ポート
	Smtuser	メール送信認証用ユーザID
	Smtpassword	メール送信認証用パスワード
	Smtadminemail	メール管理者用メアド。ログインパスワード変更通知メールの送信元として設定される
	ImageFileFolder	DB中の画像ファイル名に対応する画像データの保管先フォルダ
	OutputFolder	エディタやドライバの出力ファイル(.xls, .pdf)の保管先フォルダ。ブランクならば保管されない
	SystemFont	ドライバ用の基本フォント
	HashFormat	ログインパスワードのハッシュ方式。ブランクであれば、"MD5,1,false"と解釈される
	WelcomePageURL	メニュー上部のWelcomeページのURL。ブランクかURLへの接続に失敗すれば、省略時イメージが表示される
	DateFormat	日付や年月の表示形式。参. EditCodes.HTML
	LoginScript	ユーザがログインした直後で実行されるスクリプト。Rhino/Javascriptで記述される。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	ScriptFunctions	スクリプトの共用関数。Rhino/Javascriptで記述される。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
SubDB		サブDB(読取専用DB)定義
	ID	サブDB定義の内部識別子。"Sdb0"、"Sdb1"のように設定される
	Name	サブDBのタイプと場所(*1)
	User	サブDBの接続ユーザID
	Password	サブDBの接続パスワード
	DBCP	サブDBのDBCPオプション
PrintFont	Description	サブDBの短い摘要。エディタ上でDBのリストボックスを作る際に利用される
	ID	印刷用フォント定義。省略値として少なくとも1個は存在しなければならない
	FontName	フォント定義の内部識別子。"Font0"、"Font1"のように設定される
	PDFFontName	PDF用フォント名
	PDFEncoding	PDF用エンコーディング識別
MaintenanceLog		設計情報の保守履歴
	ID	要素を特定するための不可視的な識別子項目。同タイプの要素中で重複しない数値であること
	Header	履歴のラベル。変更前のバージョン番号等を指定する
	Descriptions	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SortKey	同タイプの要素中での一覧順序番号。ブランク可。日時(yyyymmdd hhmmss)等を指定する
Menu		メニュー定義
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。同タイプの要素中で重複しない値であること
	Name	メニュー名
	FunctionsToBeLoaded	ログイン時にロードされる機能のID。複数あればセミコロンで区切られる。
	HelpURL	メニューを開いた状態でF1(操作援助要求)を押したときに開かれるWEBページのURL。ブランク可
		メニューオプション定義
	FunctionID	リンクされる機能を示す。既存の<Function>のIDが指定される
	Index	メニュー上での並び順。メニュー内で重複した値をとらない。00.01~18のいずれかの値をとる
	Name	オプション名。ブランクの場合、リンクされた機能の名称がメニュー上で表示される
		サブシステム定義
Subsystem	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。同タイプの要素中で重複しない値であること
	Name	サブシステム名
	Remarks	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
Table		テーブル定義
	ID	要素を特定する識別子(最大40桁)。同タイプの要素中で重複しない値であること
	Name	テーブル名。一部の機能において、処理データ名として利用される
	DB	所属するDB。メインDBならばブランク、サブDBならばそのID
	ModuleID	テーブルモジュールのID。定義上のIDと同値であればブランク
	Remarks	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	UpdateCounter	レコード更新時の排他制御用の数値フィールドのID。"None"であれば排他制御なしとみなされる。ブランク可(*2)。
	DetailRowNumberAuto	自動設定されるべき「行番」がある場合、そのフィールドIDが指定される
		フィールド定義
Field	ID	要素を特定する識別子(最大40桁)。テーブル中で重複しない値であること
	Name	名称
	ColumnName	カラム名。一覧系機能での欄出しの初期値となる
	Order	テーブル内でのフィールドの並び順を表す数値。エディタ上での見かけ上の並び順
	Remarks	詳細説明。ブランク可。改行文字は"#EOL#"
	Type	データ型(*3)
	Size	データサイズ
	Decimal	数値型の場合の小数桁
	Nullable	Null(文字型ならブランク、数値型ならゼロ)を許さないなら"F"、許すなら"N"

Key	NoUpdate	値の更新を許さないなら“T”、許すなら“F”
	TypeOptions	拡張タイプ、仮想区分、負値認可区分、自動探番区分、システム区分識別、値リスト定義などの要素がコンマ区切りで設定される(*4)
	<b>テーブルキー定義</b>	
	Type	キータイプ。PK(一次識別子)、SK(二次識別子)、XK(インデックスキー)のいずれか。PKはテーブルあたり1個のみ
	Fields	キーフィールド。テーブル上の物理フィールドIDが指定される。複数フィールドの場合はセミコロンで区切られる
Refer	<b>結合定義</b>	
	Order	結合定義の並び順を表す数値。エディタ上の並び順だけでなく、結合操作の実行順序も表す
	ToTable	結合先テーブルのテーブルID
	TableAlias	結合定義の識別。テーブル中で重複しない値であること。ブランクならば、結合先テーブルIDが識別として利用される
	ToKeyFields	読取操作において利用される結合先テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる
	WithKeyFields	読取操作においてキーとして利用されるフィールド(*5)。複数フィールドの場合はセミコロンで区切られる
Script	Fields	結合先テーブルから読み取られるべきフィールド。複数フィールドの場合はセミコロンで区切られる
	<b>テーブルスクリプト定義</b>	
	Name	名称
	Order	スクリプト定義の並び順を表す数値。エディタ上の並び順だけでなく、スクリプトの実行順序も表す
	EventP	スクリプトの実行タイミング。CRUD操作との前後関係を示す(*6)
	EventR	スクリプトの実行タイミング。結合操作との前後関係を示す(*7)
	Hold	スクリプトの実行を一時保留するのであれば“T”、しないのであれば“F”
	Text	スクリプトのテキスト。ブランク可。改行文字は“#EOL#”。Rhino/Javascriptで記述される
<b>機能タイプ:XF000 Scriptランチャー</b>		
Function	<b>機能定義</b>	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。<Function>中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「Scriptランチャー」であることを示す“XF000”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Name	名称
	TimerOption	タイマーの設定条件。ブランク、または“CONSOLE”、または実行時刻の初期値として時刻表現(*21)が指定可
	TimerMessage	タイマー設定確認ダイアログでの初期メッセージ
	ServiceName	WEBサービスである場合のサービス名。ブランク可。
	Script	この機能によって実行されるスクリプト。Rhino/Javascriptで記述される
<b>機能タイプ:XF100 一括表示</b>		
Function	<b>機能定義</b>	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。<Function>中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「一括表示」であることを示す“XF100”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Name	名称
	PrimaryTable	一次テーブル。既存の<Table>のIDが指定される
	KeyFields	一次テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	OrderBy	データソース名で表されたレコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	DetailFunction	明細行を選択してエンターした場合に起動されるファンクションのID。ブランク可(*8)
	ParmType	明細行選択時に渡されるパラメータのタイプを示す(*9)
	ParmAdditional	明細行を処理するファンクションに渡される追加の固定値パラメータ。INSTANCE MODE:INGのように指定する(複数ならばで区切る)
	InitialListing	“T”であれば、起動時に検索／一覧表示する
	ProcessRowIfOnlyOne	“T”であれば、検索結果が1件であれば明細処理を自動実行する
	Size	パネルサイズ。横縦のピクセル値がセミコロンで区切られた値。ブランクならば全画面表示、“AUTO”ならば自動設定
	InitialReadCount	初期検索件数。ブランクならば、条件に合うレコードがすべて読み込まれる
	InitialMsg	パネル表示時の初期メッセージ。ブランクならば省略値が用いられる
Column	<b>明細フィールド定義</b>	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	フィールドオプション。必要に応じてCAPTION等を指定できる(*12)
Filter	<b>絞込条件定義</b>	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	絞込条件の並び順を表す数値
Button	FieldOptions	検索オプション、変更不可区分、キャプション、初期値等の要素がコンマ区切りで設定される(*10)
	<b>機能ボタン定義</b>	
	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が6
	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*11)
<b>機能タイプ:XF110 一括更新</b>		
Function	<b>機能定義</b>	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。<Function>中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「一括更新」であることを示す“XF110”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Name	名称
	PrimaryTable	一次テーブル。既存の<Table>のIDが指定される
	KeyFields	一次テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	OrderBy	データソース名で表されたレコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	Size	パネルサイズ。横縦のピクセル値がセミコロンで区切られた値。ブランクならば全画面表示、“AUTO”ならば自動設定
	InitialReadCount	初期検索件数。ブランクならば、条件に合うレコードがすべて読み込まれる
	InitialListing	“T”であれば、起動時に検索／一覧表示する
	InitialMsg	パネル表示時の初期メッセージ。ブランクならば省略値が用いられる
	BatchTable	バッチテーブル。既存の<Table>のIDが指定される。ブランク可
	BatchKeyFields	バッチテーブル上のフィールドIDを組み合わせたバッチ条件(*20)。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	BatchWithKeyFields	一次テーブル上のデータソース名を組み合わせたバッチ条件(*20)。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	BatchRecordFunction	生成されたバッチレコード1件に対して起動される機能(バッチ機能)のID。ブランク可
	BatchRecordFunctionMsg	バッチ機能の実行を指定するためのチェックボックスの文言。ブランクならば強制的に実行される
Column	<b>明細フィールド定義</b>	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	フィールドオプション。必要に応じてCAPTION等を指定できる(*12)
Filter	<b>絞込条件定義</b>	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	絞込条件の並び順を表す数値
BatchField	FieldOptions	検索オプション、変更不可区分、キャプション、初期値等の要素がコンマ区切りで設定される(*10)
	<b>バッチフィールド定義</b>	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	配置区分、キャプション、表示幅、行数、プロンプタ区分、コメント、の各要素がコンマ区切りで設定される(*13)
	<b>機能ボタン定義</b>	
Button	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が6

	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*14)
機能タイプ:XF200 単票表示保守		
Function	機能定義	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。〈Function〉中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「単票表示保守」であることを示す“XF200”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の〈Subsystem〉のIDが指定される
	Name	名称
	PrimaryTable	一次テーブル。既存の〈Table〉のIDが指定される
	KeyFields	一次テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	FunctionAfterInsert	レコードを新規追加した後で起動されるファンクションのID。ブランク可
	Size	パネルサイズ。横縦のピクセル値がセミコロンで区切られた値。ブランクならば全画面表示、“AUTO”ならば自動設定
	UpdateOnly	初期モードを更新モードにしたい場合に“T”が指定される
	InitialMsg	パネル表示時の初期メッセージ。ブランクならば省略値が用いられる
	DataName	タイトルやレコード操作後のメッセージに組み込まれるデータ名。ブランクならばテーブル名が用いられる
	フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	配置区分、キャプション、表示幅、行数、プロンプタ区分、コメント、の各要素がコンマ区切りで設定される(*13)
	タブ定義	
	Caption	タブのキャプション
	タブ別フィールド定義	
TabField	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
FieldOptions	フィールドオプション。必要に応じて、CAPTION(欄見出しの文字列)、WIDTH(フィールド幅のピクセル値)を指定できる	
	機能ボタン定義	
Button	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が6
	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*15)
機能タイプ:XF290 単票印刷		
Function	機能定義	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。〈Function〉中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「単票印刷」であることを示す“XF290”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の〈Subsystem〉のIDが指定される
	Name	名称
	PrimaryTable	一次テーブル。既存の〈Table〉のIDが指定される
	KeyFields	一次テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	PageSize	用紙サイズ。“A2”～“A6”、“B2”～“B6”、“LETTER”のいずれか
	Direction	用紙の方向。“NORMAL”(縦)、“LANDSCAPE”(横)のいずれか
	Margins	左右上下の端からの空白領域の幅(単位はポイント数。1インチ=72ポイント)を“;”で区切った値
	WithPageNumber	ページ下部中央にページ番号を表示したい場合には“T”が指定される
	フレーズ定義	
	Block	領域タイプ。“HEADER”か“PARAGRAPH”のいずれか
	Order	フレーズの並び順を表す数値
	Value	フレーズの内容を表す式の値
	Alignment	フレーズを左側に詰める(LEFT)か、センタリングする(CENTER)か、右側に詰める(RIGHT)かの指定
	AlignmentMargin	Alignmentにともなう空白領域の幅を示すポイント数
	SpacingAfter	2つのPARAGRAPHの間(行間)を表すポイント数。0ならば、フォントサイズの1.5倍が次のPARAGRAPHとの行間となる
	FontID	印刷用フォントのID。既存の〈PrintFont〉のID
	FontSize	フォントサイズ。8～40
	FontStyle	フォントスタイル。“NORMAL”、“BOLD”、“ITALIC”、“BOLDITALIC”(太字斜字体)、“UNDERLINE”のいずれか
機能タイプ:XF300 見出し明細表示		
Function	機能定義	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。〈Function〉中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「見出し明細表示」であることを示す“XF300”の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の〈Subsystem〉のIDが指定される
	Name	名称
	HeaderTable	見出しテーブル。既存の〈Table〉のIDが指定される
	HeaderKeyFields	見出しテーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	HeaderFunction	見出しレコード処理用機能のID。機能ボタンのアクション指定で起動される。ブランク可
	HeaderParmAdditional	見出しレコード処理用機能に渡される追加の固定値パラメータ(複数ならば、で区切る)
	Size	パネルサイズ。横縦のピクセル値がセミコロンで区切られた値。ブランクならば全画面表示、“AUTO”ならば自動設定
	StructureTable	構成テーブルのID。見出しテーブルに対する再帰構造テーブルであること
	StructureUpperKeys	構成テーブル上の見出しキーに対応するフィールドID。複数の場合はセミコロンで区切られる
	StructureChildKeys	構成テーブル上の再帰キーに対応するフィールドID。複数の場合はセミコロンで区切られる
	StructureOrderBy	構成データの並び順を表すフィールドID。複数の場合はセミコロンで区切られる
	StructureRootText	構成ツリーの「ルート」のノード名となる情報。見出しテーブルの物理フィールドID、およびクォーテーション( )で囲んだ固定値を利用可
	StructureNodeText	構成ツリーのノード名となる情報。見出しテーブルが構成テーブル上のデータソース名、およびクォーテーション( )で囲んだ固定値を利用可
	StructureNodeDefaultIcon	構成ツリーノードの省略時アイコン。ImageFileFolder上の画像ファイル名が指定される
	StructureNodeIconsFieldID	構成ツリーノードのアイコン切替を条件づける見出しテーブル上の物理フィールドID
	StructureNodeIconsFieldValues	構成ツリーノードのアイコン切替を条件づけるフィールドの値リスト。セミコロンで区切られる
	StructureNodeIcons	構成ツリーノードのアイコン切替を条件づけるフィールド値に対応する画像ファイルのリスト。セミコロンで区切られる
	StructureViewWidth	構成ツリービューの表示幅の初期値(ピクセル値)。50から500の間であること
	StructureViewTitle	構成ツリービューの上部に表示されるタイトル。ブランクならば構成テーブル名が設定される。
	見出し域フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	見出し域フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	配置区分、キャプション、表示幅、行数、コメント、の各要素がコンマ区切りで設定される(*13)
	明細テーブル定義。1個のFunctionが最大10ブロックまで持てる	
Detail	Caption	明細タブのキャプション。ブランクならば明細テーブル名が使われる
	Order	明細タブの並び順を表す数値
	Table	明細テーブル。既存の〈Table〉のIDが指定される
	KeyFields	明細テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	HeaderKeyFields	見出しテーブルの上位キー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	OrderBy	データソース名で表された明細レコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	DetailFunction	明細レコードを選択してエンターした場合に起動されるファンクションのID。ブランク可(*8)
	ParmType	明細行選択時に渡されるパラメータのタイプを示す(*9)
	ParmAdditional	明細行を処理するファンクションに渡される追加の固定値パラメータ。INSTANCE.MODE:INQのように指定する(複数ならば、で区切る)



	InitialReadCount	初期検索件数。ブランクならば、条件に合うレコードがすべて読み込まれる
	InitialListing	"T"であれば、起動時に検索／一覧表示する
	InitialMsg	明細タブ選択時の初期メッセージ。ブランクならば省略値が用いられる
Column	明細域フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	フィールドオプション。必要に応じてCAPTION等を指定できる(*12)
Filter	絞込条件定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	絞込条件の並び順を表す数値
	FieldOptions	検査オプション、変更不可区分、キャプション、初期値等の要素がコンマ区切りで設定される(*10)
Button	機能ボタン定義	
	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が6
	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*16)

機能タイプ:XF310 見出し明細保守		
Function	機能定義	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。<Function>中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「見出し明細保守」であることを示す"XF310"の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Name	名称
	HeaderTable	見出しテーブル。既存の<Table>のIDが指定される
	HeaderKeyFields	見出しテーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	HeaderFixedWhere	見出しレコードの固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	DetailTable	明細テーブル。既存の<Table>のIDが指定される
	DetailKeyFields	明細テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	DetailFixedWhere	明細レコードの固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	DetailOrderBy	データソース名で表された明細レコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
	StartInAddMode	"T"であれば、明細行が0件の場合、起動時に明細行追加処理から始まる
	Size	パネルサイズ。横縦のピクセル値がセミコロンで区切られた値。ブランクならば全画面表示、"AUTO"ならば自動設定
	InitialMsg	パネル表示時の初期メッセージ。ブランクならば省略値が用いられる
Field	見出し域フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	見出し域フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	配置区分、キャプション、表示幅、行数、プロンプタ区分、コメント、の各要素がコンマ区切りで設定される(*13)
Column	明細域フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	FieldOptions	フィールドオプション。必要に応じてCAPTION等を指定できる(*12)
AddRowListColumn	行追加用ダイアログ明細フィールド定義	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
AddRowListButton	行追加用ダイアログ機能ボタン定義	
	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が5
	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
Button	機能ボタン定義	
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*17)

	Position	ボタン位置。左端が0で、右端が6
	Number	機能キー番号。1(F1)から12(F12)のいずれか
	Caption	ボタンのキャプション
	Action	ボタン押下時のアクション(*18)

機能タイプ:XF390 見出し明細印刷		
Function	機能定義	
	ID	要素を特定する識別子(最大10桁)。<Function>中で重複しない値であること
	Type	機能タイプ。「見出し明細印刷」であることを示す"XF390"の固定値
	SubsystemID	所属するサブシステムを示す。既存の<Subsystem>のIDが指定される
	Name	名称
	HeaderTable	見出しテーブル。既存の<Table>のIDが指定される
	HeaderKeyFields	見出しテーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
	HeaderFixedWhere	見出しレコードの固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
	DetailTable	明細テーブル。既存の<Table>のIDが指定される(*22)
	DetailKeyFields	明細テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される(*22)
	DetailFixedWhere	明細レコードの固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可(*22)
	DetailOrderBy	データソース名で表された明細レコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可(*22)
	PageSize	用紙サイズ。"A2"～"A6"、"B2"～"B6"、"LETTER"のいずれか
	Direction	用紙の方向。"NORMAL"(縦)、“LANDSCAPE”(横)のいずれか
	Margins	左右上下の端からの空白領域の幅(単位はポイント数。1インチ=72ポイント)を";"で区切った値
	WithPageNumber	ページ下部中央にページ番号を表示したい場合には"T"が指定される
HeaderPhrase	見出し域フレーズ定義	
	Block	領域タイプ。“HEADER”か“PARAGRAPH”のいずれか
	Order	フレーズの並び順を表す数値
	Value	フレーズの内容を表す式の値
	Alignment	フレーズを左側に詰める(LEFT)か、センタリングする(CENTER)か、右側に詰める(RIGHT)かの指定
	AlignmentMargin	Alignmentにともなう空白領域の幅を示すポイント数
	SpacingAfter	2つのPARAGRAPHの間(行間)を表すポイント数。0ならば、フォントサイズの1.5倍が次のPARAGRAPHとの行間となる
	FontID	印刷用フォントのID。既存の<PrintFont>のID
	FontSize	フォントサイズ。8～40
	FontStyle	フォントスタイル。“NORMAL”、“BOLD”、“ITALIC”、“BOLDITALIC”(太字斜字体)、“UNDERLINE”のいずれか
Column	明細域フィールド定義(*22)	
	DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
	Order	明細フィールドの並び順を表す数値
	Width	明細フィールドの1行中での長さ(比率)を表す数値
	Alignment	アラインメント。“LEFT”、“CENTER”、“RIGHT”のいずれか
	FieldOptions	キャプション、編集コード、バーコードタイプ、合計区分、の各要素がコンマ区切りで設定される(*19)
Detail	明細テーブル定義。1個のFunctionが最大10ブロックまで持てる	
	Caption	明細タブのキャプション。ブランクならば明細テーブル名が使われる
	CaptionFontSize	フォントサイズ。8～40
	CaptionFontStyle	フォントスタイル。“NORMAL”、“BOLD”、“ITALIC”、“BOLDITALIC”(太字斜字体)、“UNDERLINE”のいずれか
	Order	明細タブの並び順を表す数値
	Table	明細テーブル。既存の<Table>のIDが指定される

				KeyFields	明細テーブルのキー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
				HeaderKeyFields	見出しテーブルの上位キー。複数キーフィールドの場合はセミコロンで区切られる。ブランクならば一次識別子が利用される
				OrderBy	データソース名で表された明細レコードの並び順。複数指定の場合はセミコロンで区切る。ブランク可
				FixedWhere	固定の検索条件。読取命令のWhere句に組み込まれる。ブランク可
				FontID	印刷用フォントのID。既存の<PrintFont>のID
				FontSize	フォントサイズ。8~40
				FontStyle	フォントスタイル。“NORMAL”、“BOLD”、“ITALIC”、“BOLDITALIC”(太字斜字体)、“UNDERLINE”のいずれか
				Column	明細域フィールド定義
				DataSource	データソース名。テーブルエイリアスとフィールドIDをピリオドでつないだ値
				Order	明細フィールドの並び順を表す数値
				Width	明細フィールドの1行中での長さ(比率)を表す数値
				Alignmet	アラインメント。“LEFT”、“CENTER”、“RIGHT”のいずれか
				FieldOptions	キャプション、編集コード、バーコードタイプ、合計区分、の各要素がコンマ区切りで設定される(*19)

注1 jdbc:derby://localhost/<CURRENT>%db のように、コンテンツファイルの場所を<CURRENT>で表現できる

注2 ブランクの場合、テーブル上の“UPD\_COUNTER”のIDを持つ数値フィールドが利用される

注3 以下のいずれかの値。CHAR,VARCHAR,INTEGER,SMALLINT,BIGINT,DOUBLE,DECIMAL,NUMERIC,REAL,DATE,TIME,TIMESTAMP, LONG VARCHAR, DOUBLE PRECISION,BINARY,VARBINARY,CLOB,BLOB

注4 拡張タイプ: 必要に応じて以下のいずれかが指定される。KANJI,KATAKANA, ZIPNO, URL, DIAL, IMAGE, YMONTH, MSEQ, FYEAR  
仮想区分: VIRTUAL、負値認可区分: ACCEPT\_MINUS、編集タイプ: NO\_EDITまたはZERO\_SUPPRESS、自動採番区分: AUTO(採番キーの値)、システム区分識別: KUBUN(区分キーの値)、値リスト定義: VALUES(値1:値2:値3:…)、ブール値定義: BOOLEAN(真値:偽値)

注5 データソース名が指定される。当該テーブル上のフィールドか、先行して読み取られた結合フィールドが組み合わされる

注6 以下のいずれかの値。BR(読取前)、BC(追加前)、BU(更新前)、BD(削除前)、AR(読取後)、AC(追加後)、AU(更新後)、AD(削除後)、

注7 EventPがBC、BU、BD、ARの場合にのみ有効。結合テーブルT1の読取前ならばBR(T1)、読取後ならばAR(T1)と指定する。  
BR()ならば全結合テーブルの読取前、AR()ならば全結合テーブルの読取後を意味する

注8 ブランクの場合、行を選択してエンターすると呼出元に対してレコードのキー値が返される。無効な機能IDが指定された場合は実行時にエラーの旨が示され、“NONE”が指定されている場合は行を選択してエンターしても何も起こらない。

注9 “KEYS”ならばキー値、“COLUMNS”ならば明細フィールド値が渡される

注10 検査オプション: EQ,SCAN,GENERIC,LE,LT,GE,GT,REFLECTのいずれか。ブランクならばEQとみなされる。  
変更不可区分: NON\_EDITABLE、キャプション: CAPTION(欄見出しの文字列)、ゼロ無視: IGNORE\_IF\_ZERO(数値項目の場合に値がゼロならば無視する)  
初期値: 以下のいずれかの式を用いて設定される。  
VALUE:value …指定のvalueを初期値とする  
USER.ATTRIBUTE:type …指定typeのログインユーザ属性を初期値とする  
SESSION.ATTRIBUTE:id …指定idのセッション属性を初期値とする  
プロンプタ区分: ブランク、または以下のいずれか。PROMPT\_LIST0…候補リスト(入力値に先行桁が一致する値がリストされる)、  
PROMPT\_LIST1…省略可リスト、PROMPT\_LIST2…強制リスト、PROMPT\_CALL(機能ID)…指定機能の起動  
ただし、PROMPT\_CALL(機能ID)を指定した場合には、さらに以下のパラメータ交換定義が指定される  
PROMPT\_CALL\_TO\_PUT(データソース名をセミコロンでつなげた文字値) …プロンプタ機能へ渡すフィールド値  
PROMPT\_CALL\_TO\_PUT\_TO(データソース名をセミコロンでつなげた文字値) …フィールド値の渡し先  
PROMPT\_CALL\_TO\_GET(データソース名をセミコロンでつなげた文字値) …プロンプタ機能から受け取るフィールド値  
PROMPT\_CALL\_TO\_GET\_TO(データソース名をセミコロンでつなげた文字値) …フィールド値の受取先  
配置区分: VERTICAL…垂直配置(指定がない場合の省略値)、HORIZONTAL…水平配置、HIDDEN…非表示(XF100,XF300のみで有効)、  
VERTICAL(ピクセル値)…指定マージンを置いた垂直配置、HORIZONTAL(ピクセル値)…指定マージンを置いた水平配置  
キャプション: CAPTION(欄見出しの文字列)、NO\_CAPTION…キャプションなし  
表示幅: WIDTH(ピクセル数)

注11 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、ADD…明細処理機能を追加モードで起動、OUTPUT…一覧をエクセル出力、  
CALL(機能ID:追加の固定値/パラメータ)…指定機能を起動、RETURN\_ROWS…選択された複数行のキーを返す、NULL…ヌルキーを返す

注12 キャプション: CAPTION(欄見出しの文字列)、表示幅: WIDTH(ピクセル数)、プロンプタ区分(注10参照)、配置区分(注10参照)

注13 配置区分: (注10参照)  
キャプション: CAPTION(欄見出しの文字列)、NO\_CAPTION…キャプションなし、  
表示幅: WIDTH(ピクセル数)、行数: ROWS(行数)、プロンプタ区分(注10参照)、コメント: COMMENT(文字列)、  
値のアラインメント: ALIGNMENT(LEFT,RIGHT,CENTERのいずれか。指定なしの場合は自動設定)、CAPTION\_WIDTH:キャプションの表示幅

注14 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、PREV…選択パネルへ戻る、NEXT…更新パネルへ進む、UPDATE…更新、OUTPUT…一覧をエクセル出力

注15 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、COPY…複写モードへの切替、EDIT…編集モードへの切替及び更新、DELETE…削除、  
OUTPUT…一覧をエクセル出力、CALL(機能ID:追加の固定値/パラメータ)…指定機能を起動

注16 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、ADD…明細処理機能を追加モードで起動、HEADER…見出しレコード処理の起動、  
OUTPUT…一覧をエクセル出力、CALL(機能ID:追加の固定値/パラメータ)…指定機能を起動

注17 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、ADD\_SELECTED…選択分を追加、ADD\_BLANK…空白行の追加、CALL(機能ID)…指定機能を起動

注18 以下のいずれかの値をとる。EXIT…終了、ADD\_ROW…明細行の追加、CALL\_TO\_ADD…行追加用機能の起動、REMOVE\_ROW…明細行の削除、  
DELETE…見出しレコードの削除、OUTPUT…一覧をエクセル出力、UPDATE…更新。なお、CALL\_TO\_ADDの場合、次のように設定される(項目IDはデータソース名で、  
複数あれば区切られる)。CALL\_TO\_ADD(機能ID) PUT\_FROM(渡し元項目ID) PUT\_TO(渡し先項目ID) GET\_FROM(受け元項目ID) GET\_TO(受け先項目ID)

注19 キャプション: CAPTION(欄見出しの文字列)、編集コード: EDIT\_CODE(code)…codeについてはEditCodes.HTML参照、  
BARCODE.TYPE(type)…typeについてはEditCodes.HTML参照、合計区分: WITH\_TOTAL

注20 処理された一次テーブル上のレコードをグルーピングし、グループ毎にバッチテーブルの1レコードを新規追加するためのグルーピング条件のこと。  
バッチ条件が指定されない場合は、処理されたレコード全体に対してバッチテーブルレコードが1件新規追加される。

注21 時刻表現としては、23:45のように単独指定する形式の他、LIST(10:00, 11:00, 12:00)のように複数時刻を早い順に並べる形式と、REPEAT(10:00, 18:00, 600)  
のように指定範囲の中で指定秒数(600秒であれば10分)毎に繰り返す形式の3種類。“CONSOLE”の場合はタイマーなしでコンソール表示される。

注22 Detail要素が1件も含まれない場合に利用される。XF390の新旧様式を共存させるための措置。